



富士の国やまなし国体  
今君は氷上の風になる

氷闘！ かながわ・よこはま冬国体



# 第73回大会 TEAM FUKUOKA NEWS

福岡県選手団サポートニュース H30.2.1 Vol.8



## 1/31 氷上の風、優雅な舞い、 本県フィギュアチーム全種別入賞！

フィギュア最終種目、成年女子フリー。上地悠理花選手は、黒と緑の艶やかなコスチュームで登場。指先まで感情が入った素晴らしい表現力としなやかなステップにより、フリー16位。竹野比奈選手は、荘厳な音楽に乗り、前半はジャンプをことごとく決めた。疲れの出る後半にも果敢にジャンプを取り入れ、数々の美しいスピンの披露し、観客を沸かせ、フリー4位となった。

本県成年女子チームの都道府県順位は4位。中庭コーチは、「全体的に良いできだった。県全体のレベルアップができた。」と、これまでの強化の手応えを語った。

また、本県スケート選手団総監督の湯浅氏は、「少年が勢いをつけてくれた。特に少年男子は、昨年唯一入賞できなかった悔しさを晴らすべく、トレーニングを重ねてきた結果が出た。成年は狙った通りの結果。」と、チーム一丸となって全種別入賞を果たした喜びを語った。

【フィギュア競技の競技得点上位の都道府県】

順	都道府県名	成男	成女	少男	少女	合計
1	大阪府	24	18	18	24	84
2	愛知県	12	24	12	21	69
3	福岡県	18	15	9	3	45
3	京都府	3	21	6	15	45
3	東京都	15	12	0	18	45



【会場を沸かせた竹野比奈選手】



【竹野選手（左）と上地選手（右）】



【素晴らし表現力を見せた上地悠理花選手】



## 1/31 果敢に攻撃!!

## アイスホッケー成年・少年 W入賞！ 10点獲得！

### 【成年男子】

福井県との5～8位順位決定戦に敗れ、神奈川県との7・8位決定戦に臨んだ。準決勝北海道戦後に選手3名が後期試験のため、大学へ戻った。この日の2試合も相手チームに果敢に挑んだ。相手がペナルティーをとられる場面が多かっただけに、全員揃った試合を最後まで観たかった。初戦の前にクイン翔士主将が語った「勝ちに行く」という言葉が、最後の最後までチーム全員に浸透した素晴らしい試合であった。

## 【少年男子】

最後の試合、7～8位決定戦では滋賀県と対戦。残念ながら敗れ、8位が確定。1回戦を除く3試合は、全て格上のチームとの対戦となり、攻め込まれる時間が多かった。しかしながら、最後まで相手の滑りやスピードについていこうとする姿勢が徐々に増えていったことは、必ずや来年に繋がる貴重な体験となった。



【8位入賞の本県成年チーム】



【8位入賞の本県少年チーム】



## 1/31 ショートトラック 少年男子1000m

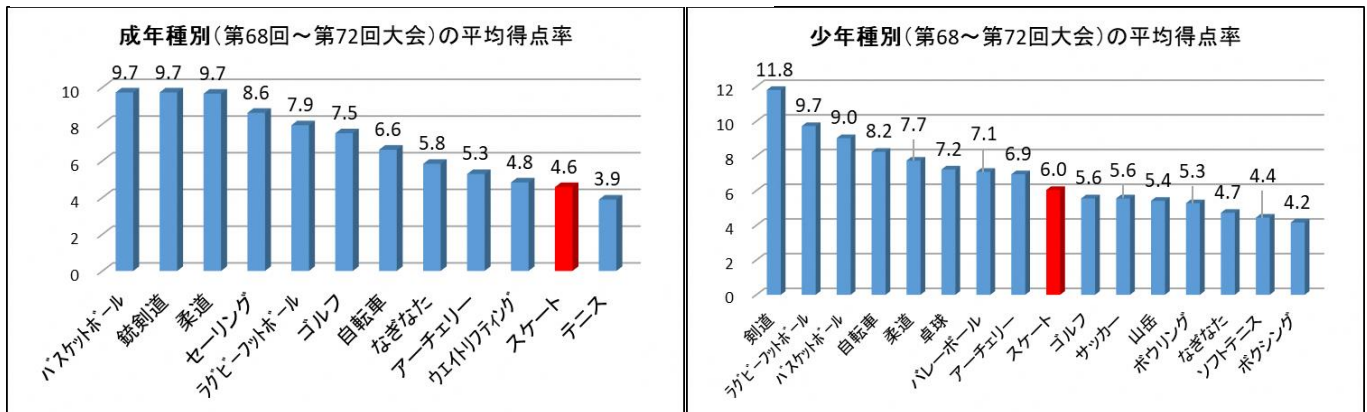
### 井上瑠汰選手 3位入賞！

井上瑠汰選手（沖学園高校）は、実力通りA決勝に勝ち進んだ。井上選手の滑走スタイルは、序盤は最後尾に付けて、後半に勝負をするスタイル。A決勝でもそのスタイルを貫き最後尾からのスタート。2週目に先頭に立ち、他の選手と先頭争いを繰り広げたが一步及ばず3位。ショートトラック初の競技得点の獲得は、明日に繋がるものであった。



【3位入賞の井上瑠汰選手】

### 【データのつぶやき】得点率3.7%を目指す！



昨年11月の国体解団式において、県選手強化推進実行委員会事務局から、「国体において、各競技団体が得点率3.7%の競技得点（参加点は除く）を獲得すれば、県全体の競技得点が1200点となり、これに参加点400点を加えると、確実に天皇杯8位入賞を果たすことができる」という話をさせていただいた。もちろん、競技ごとに「ブロック大会通過県数」や「各県における普及度合」などに差異があるため、一概には言えないが、各競技団体には目標指標の一つとして頭に入れていただきたい数字である。

上のグラフは、過去5年間の国体における「県内競技団体の平均得点率」のうち、『3.7%』を上回った競技を示している。

〔※得点率＝国体での当該競技全種目の競技得点に占める本県選手団が獲得した競技得点の割合〕

〔計算例〕本冬季大会のアイスホッケー競技で本県は、成年も少年も8位となり、各5点の競技得点を獲得。両種別ともに、入賞都道府県は計180点が獲得できるため、本県の得点率は、成年も少年も、 $5 \div 180 = 0.028$  (2.8%)となる。

今回、フィギュアやショートトラックの活躍が目立っている「スケート」は、過去5年間で平均得点率が、成年で4.6%、少年で6.0%と非常に高く、本県の得意種目であり、大きな得点源の一つと言える。本日のショートトラックの活躍如何によっては、その数値をさらに高めることができ、9月開催の本国体に出場する他競技団体の刺激にもなると考える。